

思想史入門の魅力

安藤隆穂

思想史と社会思想史

- ▶ 思想とは何か？
 - ▶ 社会思想史
 - ▶ 思想の社会的態度を問う
 - ▶ 様々な思想史
 - ▶ 哲学史
 - ▶ 法思想史
 - ▶ 経済思想史
 - ▶ 文学
 - ▶ 教育
 - ▶ 科学思想史
 - ▶ 人間と自然
 - ▶ 人間と社会
 - ▶ 意識の生産
 - ▶ 社会運動史
 - ▶ 民衆思想史
 - ▶ 社会史
-



思想史と私

- ▶ フランス思想史
- ▶ 自由と個人をめぐる問い
- ▶ 18世紀：啓蒙思想
- ▶ フランス革命1789
- ▶ 19世紀思想
- ▶ コンドルセとの出会い
- ▶ コンドルセとは何者か？
- ▶ 最後の啓蒙思想家
- ▶ 市民革命の思想家
- ▶ 近代と人間進歩の思想：
科学への信頼：19世紀へ



啓蒙の時代⇒市民革命⇒産業の時代 フランス文明史の中で

- ▶ 《絶対王政と啓蒙思想》
- ▶ 封建制→権力の統合と合理化
- ▶ 王権／官僚制／軍隊
- ▶ 中央集権的統治／商品経済と資本主義をビルト・イン
- ▶ 文明化と科学による合理的統治
- ▶ 知識人の政治化
- ▶ 《フランス革命》
- ▶ 「人間と市民の諸権利の宣言」1789
- ▶ 身分(司祭・貴族・平民)
- ▶ ⇒
- ▶ 人間と市民の社会と国家
- ▶ 《産業社会》
- ▶ 科学と人間の無限進歩

思想家群

- ▶ 啓蒙思想期
 - ▶ ヴォルテール
 - ▶ モンテスキュー
 - ▶ アンシクロペディスト
 - ▶ ルソー
 - ▶ チュルゴ
 - ▶ コンドルセ
 - ▶ フランス革命期
 - ▶ アベ・シェイエス
 - ▶ ミラボー
 - ▶ コンドルセ
 - ▶ ロベスピエール
 - ▶ 19世紀自由主義・産業主義
 - ▶ J.B.セー、B.コンスタン、A.コント、ギゾー、サン・シモン、数学と自然科学
-

Condorcet, 1743-94

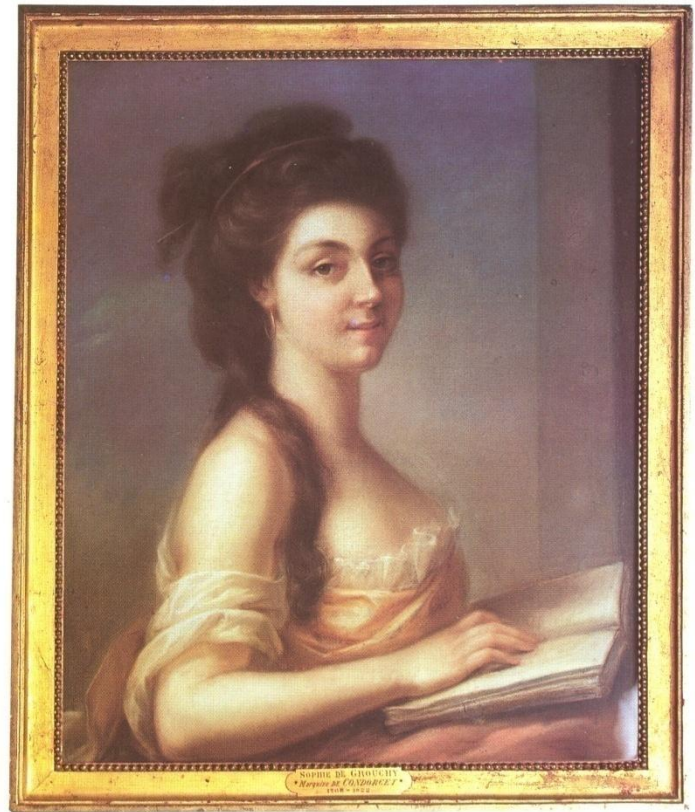
- ▶ 1743 ピカルディ貴族の子
- ▶ 1768フランス科学アカデミー会員(数学)
- ▶ 1789フランス革命
- ▶ 1791立法議会議員
- ▶ 1792国民公会議員
- ▶ 1792ジロンド派「教育計画」提案(公教育委員長)
- ▶ 1793ジロンド憲法草案／死刑判決
- ▶ 1794獄中で自殺
- ▶ 遺著『人間精神進歩史』
- ▶ 1774-76チュルゴ財務総監の改革:造幣局長官
- ▶ (エコノミスト・コンドルセ)
- ▶ 1776アメリカ独立宣言
- ▶ アダム・スミス『国富論』
- ▶ 自治体論、共和主義、道德哲学
- ▶ 1789年協会と黒人友の会
- ▶ 1781『黒人奴隷に関する考察』
- ▶ 1790-92『公人叢書』
- ▶ 『国富論解説』
- ▶ 『公教育についての5つの覚書』
- ▶ 1798ソフィー・コンドルセ『道德感情論』フランス訳

コンドルセ夫妻

コンドルセ 1743-94



コンドルセ夫人 1764 - 1822



コンドルセ神話？吟味

- ▶ コンドルセ神話
 - ▶ 科学とは何？
 - ▶ 科学による統治は人間を幸福にするか？
 - ▶ 圧政と戦い真理と科学に殉じた哲学者
 - ▶ ソフィー・コンドルセ序文
 - ▶ 『人間精神進歩史』刊行への国民公会による序文
 - ▶ 道徳哲学
 - ▶ 科学による統治に道を開いた
 - ▶ 人間が幸福になりうる範囲で幸福になる時代
 - ▶ 人類の無限進歩／科学技術と産業信頼
 - ▶ 科学の時代の不幸と希望（パスカル的問題）？
-

人文学の再構築

- ▶ 道徳哲学
- ▶ アダム・スミス
- ▶ 科学への信賴
- ▶ 経済学⇒道徳哲学
- ▶ ⇒
- ▶ 科学の時代にある人間の困難
- ▶ 自由のモラル
- ▶ 市民のモラル

自由⇒自由の困難

市民⇒近代人の矛盾

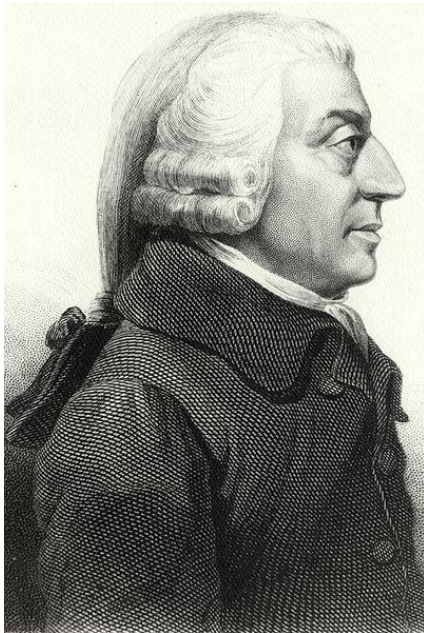


コンドルセとアダム・スミス

- ▶ スミスの自由主義
 - ▶ 『国富論』1776
 - ▶ 自由放任と見えない神の手
 - ▶ 市場万能論か？
 - ▶ 商業社会と人間
 - ▶ コンドルセによるスミス
 - ▶ 道徳哲学(『道徳感情論』1759)
 - ▶ 同感による自由のモラル
 - ▶ 商品をめぐる人間状況⇒商業社会
-



Adam Smith 1723-90 // 三角貿易の克服



『公教育についての5つの覚書』 1791

公教育論としてスミスを読む（1）

- ▶ 公教育の目的⇒
 - ▶ 人間と市民を育てる
 - ▶ 無償の公教育
 - ▶ 近代人（商業社会）とは？
 - ▶ 職業人＝財産と労働の自由／商業の自由（自由・平等・契約）
 - ▶ 近代の公教育＝知育
 - ▶ 古代の教育＝共通訓育
 - ▶ 古代人（都市国家）と近代人の自由の違い
 - ▶ 人間は個人となり市民となる（コンドルセ）
 - ▶ 人間は市民となり個人となる（ルソー）
 - ▶ 個人的自由と政治的自由
-

公教育論としてスミスを読む（２）

- ▶ 近代社会とは？
- ▶ 分業社会＝社会的分業
- ▶ 二つの分業／社会という分業／公私（社会と国家）の分業
- ▶ 技術としての知識の習得
- ▶ 自然的技術
- ▶ 社会的技術
- ▶ 専門人の分業
- ▶ 専門人と日常生活

公教育論としてスミスを読む (3)

- ▶ 公教育と自由のモラル
- ▶ 分業の弊害
- ▶ 人間の孤立化と奇形化
- ▶ 知的寡頭制という弊害
- ▶ 教室の意味(平等・男女共学)
- ▶ 家族による偏見の相対化
- ▶ 討議による真偽判断の習慣
- ▶ ⇒
- ▶ 自由のモラル
- ▶ 市民のモラル

公教育論としてスミスを読む（4）

- ▶ 公教育の空間とスミスの「商業社会」
 - ▶ 自由な財産にもとづく勤労の分業
 - ▶ 自由競争のモラル
 - ▶ 観察者と同感
 - ▶ 公教育空間と現実社会
 - ▶ 商業社会
 - ▶ 公共空間
 - ▶ 言論圏
 - ▶ 近代的個人が市民となる
 - ▶ 代議制民主主義（自由共和国）
-

文献散策という問題

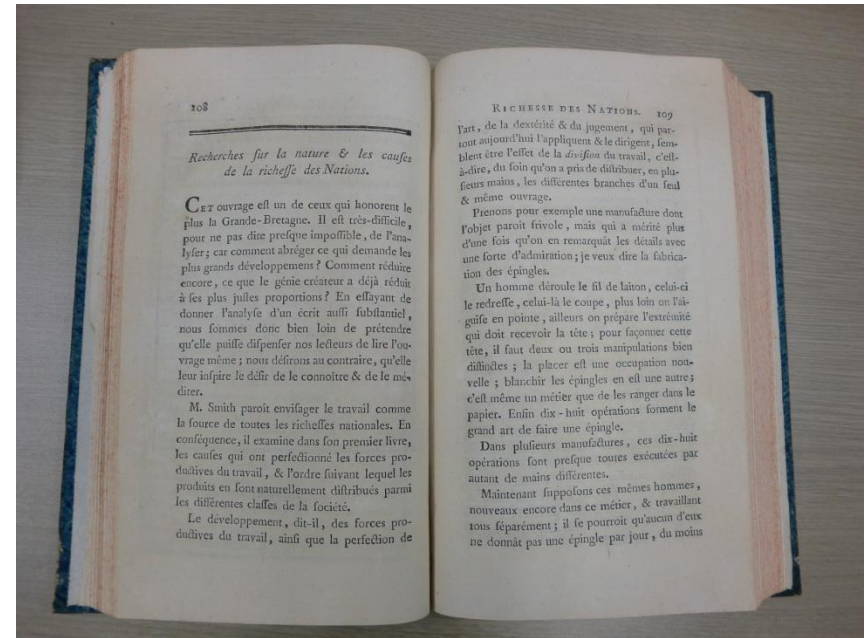
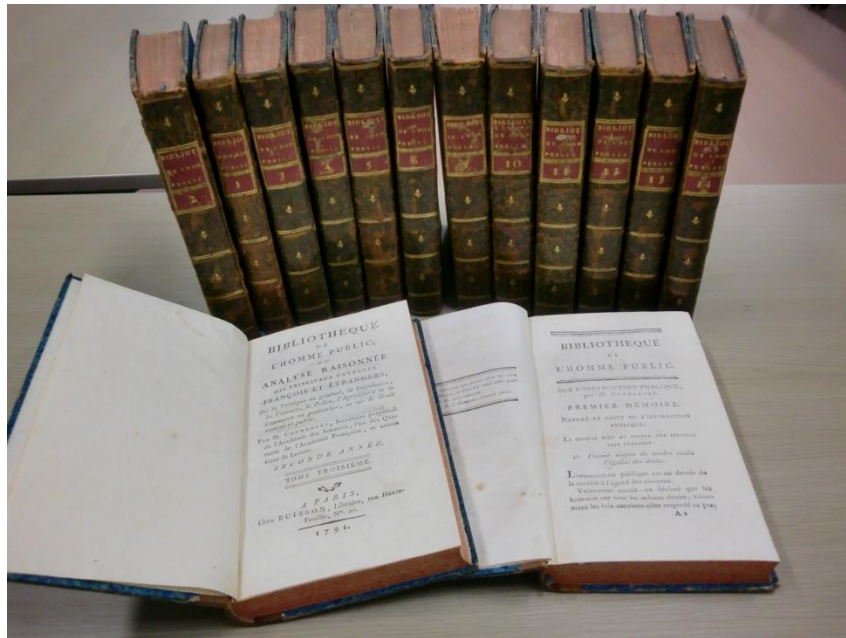
- ▶ コンドルセの『国富論』解説はどこに行った？
- ▶ ルーシエ訳『国富論』（1790-91）に続巻として予告（刊行されず）
- ▶ 『公人叢書』（1790-91）
- ▶ 『国富論解説』
- ▶ 『公教育に関する5つの覚書』
- ▶ 見えない神の手と公教育



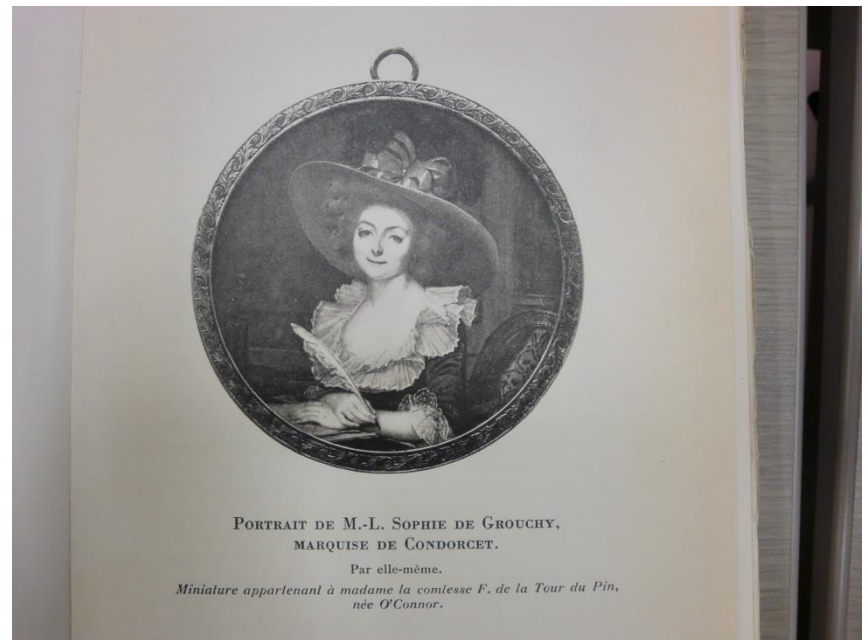
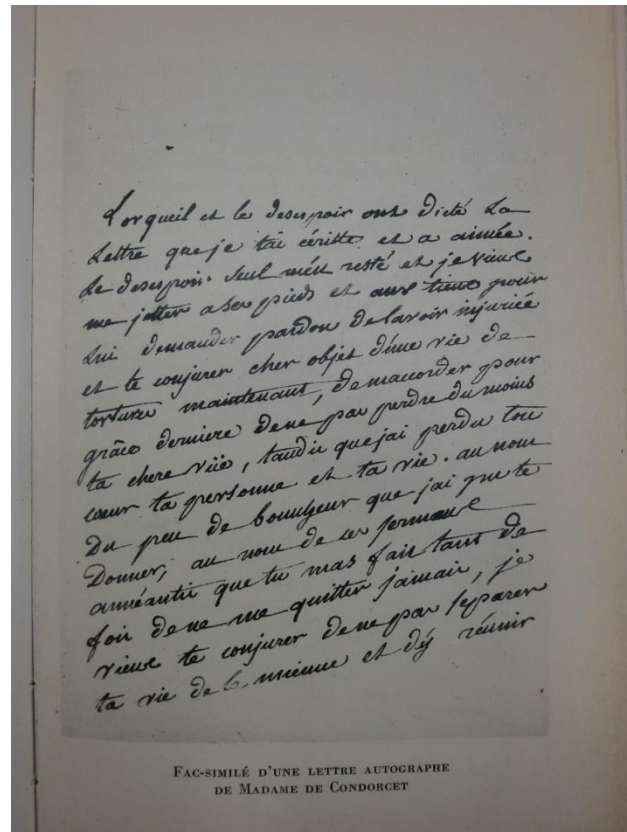
コンドルセ 『公人叢書』

『公人叢書』全14冊

『国富論』解説



ソフィー・コンドルセ



ソフィー・コンドルセ自画像とゴヤ

ソフィー・コンドルセ自画像 1800

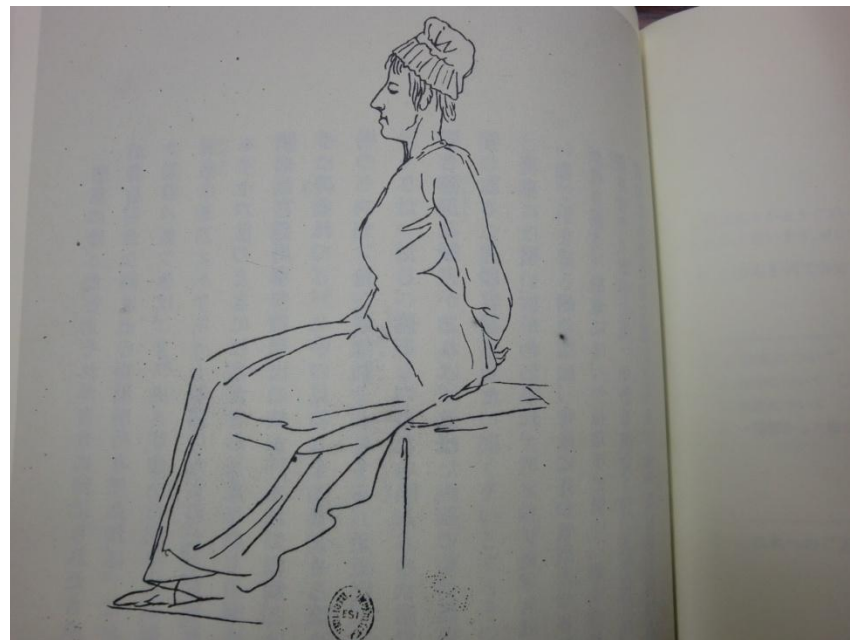
ゴヤ 1798-1805?



附録

パリ造幣局18世紀末

ダヴィッド1793アントワネット



ゴヤ／ドラクロア



ピカソ



新しいコンドルセ

- ▶ 科学と産業の進歩を信奉
(自然と社会の科学)
 - ▶ 自由と民主主義を信奉
 - ▶ 啓蒙から自由主義へ
 - ▶ 国家からの個人の解放
 - ▶ 市場の開放と国民経済の発展
 - ▶ 啓蒙の進歩主義の実現
 - ▶ 科学技術と産業の時代の困難を生きる(人文学)
 - ▶ 人間と市民の矛盾を自覚
 - ▶ 自由主義の困難／独自のフランス自由主義
 - ▶ 公共圏の発見
 - ▶ 世界史像：両義性のなかの市場と主権
 - ▶ 啓蒙の屈折を知る／道徳哲学(パスカル・スミス)
-

世界像の新視界

- ▶ 各国史から世界史へ
 - ▶ 18世紀を両義性の時代と見る
 - ▶ 公共圏の意義
 - ▶ 世界経済システム
 - ▶ 三角貿易のアルマゲドン
 - ▶ 主権国家と対抗と秩序
 - ▶ 1648ウエストファリア条約
 - ▶ カフェ、サロン、新聞と本と読書、裁判の公開
 - ▶ 公論の成立
-

対象：18・19世紀の両義性

- ▶ 世界商業
- ▶ イギリス市民革命1642ー
- ▶ ウェストファリア条約1648
- ▶ 文芸共和国→公共圏
- ▶ イギリス産業革命
- ▶ フランス革命1789ー
- ▶ ナポレオン帝政1804ー
- ▶ フランス産業革命
- ▶ 1830年、1848年諸革命
- ▶ 近代国家、市場、公共圏
- ▶ 《歴史学(社会史)》
- ▶ 三角貿易／東西インド会社(イギリス1600ー)
- ▶ スペイン継承戦争(1701 -13)
- ▶ オーストリア継承戦争(1740-48)
- ▶ リスボン大地震(1755.11.1)
- ▶ 7年戦争(1756-63)
- ▶ アメリカ独立宣言1776
- ▶ ナポレオン戦争(1804-15)
- ▶ 恐慌(1825,36, 47, 68)
- ▶ 戦争、革命、貧困
- ▶ 《世界システム論》

フランス自由主義の発見

通説

- ▶ フランス革命以後
- ▶ 個人の私的自由を主張
- ▶ J.Bセー、コンスタン、ギゾー→トクヴィル
- ▶ スミス『国富論』の影響

新説

- ▶ 起源：革命以前の王政改革（コンドルセ）
- ▶ 自由のモラルと公共性を強調（個人・社会・政治）
- ▶ コンドルセ夫妻→スタール夫人、コンスタン
- ▶ スミス『道徳感情論』の影響



公共圏の思想と自由主義 (思想史の新コンテクスト)

[政治:体制]

[公共圏の諸段階]

I. チュルゴ王政改革
(チュルゴ、コンドルセ)

・公論の誕生と公共圏

II. フランス革命:共和国
(シエース、ロベスピエール、コ
ンドルセ)
(ソフィー・コンドルセ、レドレル)

・公共圏の論争
: 公論と公共精神
: 世論と公論

III. ナポレオン帝政
(スタール、コンスタン)

・公共圏の変容
: 公論
: Popular Sentiments
(世論)

